地球環境を考える〃

（人・自然・社会をつなぎ直す）

平成 27 年度彩の国環境大学実践課程
受講生　竹内繁生

環境大学は人間の活動と環境の関わりについて、理解を学ぶ教育の場として開設された。

埼玉県環境科学国際センター　　2015 年 8 月 29 日土曜日　　研修室前にて

埼玉県の生態

チョウトンボ　　ジャコウアゲハ　　ノコギリクワガタ　（ニュース　レター）

地域で行う環境教育とは、自然環境の保護を重視し、持続可能な開発可教育である。

※人づくり　　人材養成のあり方と実際

※企業とのパートナーシップ　　企業と協働

※行政とのパートナーシップ　　行政と協働

あなたも、今からでも遅くない〃自然体験を通じて地球環境を考えましょう。

地球環境の実態は、一般に知られているよりはるかに深刻です。

人口爆発と貧困　　ごみ問題　　地球温暖化　　オゾン層破壊　　生物種の絶滅

食糧問題　　砂漠化　　水資源の危機　　森林破壊　　エネルギー問題

わたしたちは今、何をすべきなのか（ネットワーク『地球村』）

セヴァン・スズキ『伝説のスピーチ』

1992年6月、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ。環境と開発に関する国連会議(環境サミット)に集まった世界の指導者たちを前に、12歳の少女、セヴァン・スズキは語り始めました。

※※※※※※※※

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話します。エコというのは、子供環境運動(エンバイロメンタル　チルドレンズ　オーガニゼーション)の略です。カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるために頑張っています。あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ**生き方を変えて**頂くようお願いするために、自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をして来ました。

今日の私の話には、ウラもオモテもありません。なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。自分の将来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとは、わけが違うのですから。私がここに立って話しているのは、未来に生きる子どもたちの為です。世界中の飢えに苦しむ子どもたちの為です。そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちの為です。太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。呼吸をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。父とよくバンク-バ-で釣りをしたものです。数年前に、体中ガンでおかされた魚に出会うまで。そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを私たちは耳にします。それらは、永遠にもどってはこないのです。

私たちの世代には夢があります。いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないか。**あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。**

こんな大変なことが、ものすごい勢いで起こっているのに、私たち人間ときたら、まるで、まだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。まだ子どもの私には、この危機を救うのに、なにをしたらいいのかはっきりわかりません。でも、**あなたたち大人**にも知ってほしいのです。**あなたたちもよい解決法なんてもっていないっていうことを**。オゾン層にあいた穴をどうやってふせぐのか、あなたは知らないでしょう。死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのですか。あなたは知らないでしょう。絶滅した動物をどうやって生き返らせるのか、あなたは知らないでしょう。そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめて下さい〃

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。でも本当は、あなたたちもだれかの母親であり、父親であり、姉妹でもあり、兄弟でもあり、おばでもあり、おじなのです。そしてあなたたちのだれもが、だれかの子どもなのです。私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです、50億以上の人間からなる大家族。いいえ、実は3千万種類の生物からなる大家族。国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、**ひとつの目標に向けて心を一つにして行動しなければならないことを知っています**。私は怒っています。でも、自分を見失ってはいません。　**私はこわい**。でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、**私は恐れません**。

私の国での、むだづかいはたいへんなものです。買っては捨て、また買っては捨てています。それ

でも浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。物が有り余っているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいのです。カナダの私たちは十分な食べ物と水と住まいを持つ恵まれた生活をしています。時計、自転車、コンピュータ、テレビ、私たちの持っているものを数え上げたら何日もかかることでしょう。2 日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。ひとりの子どもが私たちにこう言いました。

『ぼくが金持ちだったらなぁ。もしそうなら、家の無い子全てに、食べ物と、着るものと、薬、住む場所と、やさしさと愛情をあげるのに。』家もなにもないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、すべてをもっている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなのでしょう。

これらのめぐまれない子どもたちが、私たちの同じ歳だということが、私の頭をはなれません。どこに生れついたかによって、**こんなにも人生が違ってしまう**。私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないのです。ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、インドで物乞いをしていたかもしれないのです。

もし、戦争に使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決する為に使えばこの地球は素晴らしい星になるでしょう。私はまだ子どもだけどそのことを知っています。

学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに世の中でどうふるまうかを教えてくれます。たとえば、

☆争いをしないこと。

☆話し合いで解決する事。

☆他人を尊重すること。

☆ちらかしたら自分でかたづけること。

☆ほかの生物をむやみに傷つけないこと。☆わかちあうこと。

☆そして欲張らないこと。

ならば、なぜ、あなたたちは、**私たちにするな**ということを**しているのですか**。　なぜ、あなたたちが今こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。そして、いったい誰の為にやっているのか、それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち生きていくのかを決ているのです。

親たちはよく『だいじょうぶ。すべてうまくいくよ。』といって子どもたちをなぐさめるものです。あるいは『できるだけのことはしているから』とか『この世の終わりじゃあるまいし』とか。しかし、大人たちはもうこんな、なぐさめの言葉さえ使うことができなくなっているようです。**おききしますが、私たち子どもの未来を真剣に考えた事がありますか。**

父はいつも私に不言実行、つまり、なにをいうかではなく、なにをするかでその人の値打ちが決まる、といいます。しかし、あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。しかし、言わせて下さい。その言葉が本当ならどうか、**本当だということを行動で示して下さい。**

最後まで私の話を聞いてくださってありがとうございました。

セヴァン・スズキ〖伝説のスピーチ〗は下記文より引用しました。

平成 27 年度　彩の国　環境大学　実践課程教育資料

セヴァンカリス＝スズキ(著)ナマケモノ倶楽部(翻訳)

［あなたが世界を変える日－12 歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ］

　学陽書房 2003 年 7 月